



大浜中だより

2016.12.15

12月10日(土) にシオーネにおいて、掛川市地区更生保護大会(第66回社会を明るくする運動)が行われました。本校1年生土門華さんの作文が掛川市長賞に選ばれ、市長をはじめ多くの来賓の前で堂々と発表してくれました。

また、1年生小木春樹くんが掛川地区更生保護女性会会長賞に選ばれましたので、作品を紹介します。

「あいさつを大切に」

1年 土門 華

「行ってきます。」「行ってらっしゃい。」今日も、母の明るい元気な声に送られて学校に向かいます。母はどんなことがあっても朝は必ず元気な声で見送ってくれます。

例えば昨日の夜に母とけんかをして、強くしかられて気分が悪くなりそのまま話をしないで眠ってしまったとしても、母は何事もなかったかのように明るく、元気な声で見送ってくれます。

だから私も自然と気持ちがほぐれ元気を取りもどし、気持ちもよくなっていきます。



こんなことを聞いたことがあります。「朝は一日の始まりであり、朝は大事なんだ。誰もが、気持ちよく出かけられるようにすることが大切なんだ。きげんが悪く出かけてしまったために不注意となり、事故にあってしまうかもしれない。だから家を出る時には、きげんよく出られるようにしなければならないんだ。」きっと、母はそのことをいつも心に思っていて、私が家を出るときには、必ず明るく元気な声をかけてくれるのだと思います。

そんな母の姿から、私はちょっとしたなげないあいさつでも、人の心を明るくさわやかに、そして元気づけてくれるのだらうということを教えられました。だから私も、母の教えを守って誰にでも明るく、元気なあいさつをしようと心がけています。そしておたがいに気持ちよくなって、いい朝をむかえられたらいいなと思います。

こんなことがありました。登校の途中で知らないおじさんに会いました。その人は道のそばにすわって何をするわけでもなく、タバコを吸いながら私達の方を見ている。私は母の言葉を思いだし、あいさつをしてみようかと思いましたが、知らない人だし、何だか近寄りたない感じがして、どうしてもあいさつをすることができないでいました。そんな日が続いたので、そのことを母に話をしたら、「華、知らない人だろうと、地区の人だと思うし、もしかしたら、おじさんは声をかけてもらいたいのかもしれないよ。」と、言われました。その言葉に私は、少し勇気をもらい、明日はちゃんと声をかけてみようと思いました。

次の日、いつものように母の声に見送られて、いつも一緒に登校している友達と学校に向かっていくと、同じようにおじさんがいました。タバコを吸いながら、私達の方を見ている。私は、声をかけてみようと思いました。でも、やっぱり声がでません。たった一秒、たった一言なんだけど、なかなか声になりません。でも、母の言葉を思い出し、勇気を出し「おはようございます。」と言ってみました。そしたら、おじさんは少し驚いた様子でしたが、「おはよう。行ってらっしゃい。」と返してくれました。ドキドキしたけれど、声をかければ何のこともありませんでした。その日から、おじさんと会うたびに笑顔でおたがいにあいさつができるようになりました。

ちょっとした勇気、たった一秒、たった一言のあいさつでも心もさわやかで明るくなりました。

母が言った通りでした。みんながちょっとした勇気を出して、あいさつをかわし、みんな知り合いに、そして親しくなっていけば、家族も地域も明るくと思います。

そのことが悪いことのない明るい社会の出発点だと思います。まずは家庭。どこの家庭でも明るくさわやかなあいさつで一日がスタートすれば、全体がさわやかな一日をむかえることができると思います。たった一秒、たった一言が社会を変え、明るく悪いことのない社会を築くきっかけになると思います。私もそういう社会を創れるように一秒、一言の勇気を投げ続けたいと思います。



ぼくは、部活動は外部で、サッカー部に入っています。四月から約四ヶ月半、コーチやチームメイトといっしょに活動をしてきて、三つの学んだことやわかったことがあります。

一つ目は、あいさつの大切さです。サッカー部の初めてのミーティングで、「チームメイト、コーチ、保護者の人たちにあいさつをしよう。」とみんなで決めました。ぼくは、恥ずかしがり屋なので、初めのうちは特に意識してあいさつをするようにしていました。しかし、毎回繰り返しているうちに、サッカー部では、自然にあいさつができるようになりました。そのおかげで、大きな声を出すことに自信がついてきて、ゲーム中で、パスをする仲間の名前を呼んだり、自分がフリーな時にパスをもらう声を出せるようになったりして、練習や試合が楽しくできるようになりました。あいさつは、自分に自信をつける大切な言葉だと思います。

また、登下校中に、横断歩道に立ってくださっている方々が、「おはよう。」「お帰り。」とか声をかけてくださるのに、「おはようございます。」「さようなら。」などのあいさつも、自然に返せるようになりました。

二つ目は、周りを見るということを学びました。サッカーでは、周りを見て動かないと、フリーでないチームメイトにパスを出してしまい、ボールを取られてしまうことがありました。また、ボールを持っていない時に、自分がボールをもらうために、敵の動きをよく見て自分がもらえる位置まで動かないとパスがつながりません。

日ごろの生活でも、周りを見て自分が行動しないと何も変わりません。

例えば、学校の教室でゴミが落ちていてもそれを拾わなかったら、そのままになってしまいますが、ちょっと手を伸ばして拾えば、きれいになり、自分の気持ちもすっきりします。それから、多くの荷物を持って困っている友達を見つけた時に、ちょっと自分が手伝ってあげれば、楽に運べるようになります。



このようにちょっと自分が周りを見て行動すれば、良い方向に動いていくことがたくさんあることがあります。

三つ目は、裏で支えてくれる人の大切さやありがたみを学びました。サッカーでは審判や、オフサイドをとってくれる人などの、試合をするために支えてくれる人たちがいます。ぼくたちが、気持ちよく思いきり試合ができるのは、そういう支えてくれる人たちがいるからです。学校でも、潮風祭では、いろいろな係の人がサポートをしてくれて順調に進行したり、成功したりしました。

ふだんの生活でも何も考えないで当たり前のように生活しているけれど、食事のことや身の回りのことなど、全て、家族に支えられています。自分が、学校に行き勉強して、遊んで、サッカーに行きなど好きなことができるのは、家族の支えがあってこそです。いつも当たり前のように生活していること一つ一つに感謝の気持ちを持って、まじめにやっていかなければいけないと改めて思いました。

ぼくは、外部のサッカー部に入って学んだ三つのことを、これからの中学校生活や、地域の人たちとのかかわりの中で生かしていきたいです。

今後の主な日程

- ～12月20日(火) 三者面談
- 12月22日(木) 冬休みを迎える会
- 12月23日(金) 冬季休業
- ～1月5日(木)
- 1月6日(金) 新年を迎える会
- 1月12日(火) 1・2年学力調査テスト、3年学力テスト
- 1月13日(水) 3年生進路説明会
- 1月24日(火) 1・2年生 参観懇談会、学校関係者評価委員会
- 1月30日(月)～ 私立高等学校 願書受付

